

# 強者の戦略

【この夏の間知識をしっかりとつけて論述対策に臨みましょう】

みなさんこんにちは、世界史の北林です。暑い毎日ですね。巷では熱中症にかかる人も多いようですが、みなさんは、水分をしっかりととり、休むときにはしっかりとやすんで体調万全で受験勉強に臨んでください。たまには体を動かしたりしてくださいね。

ちなみに私は、講習会のある一日で体重が1.5キロ落ちた日がありました。いやー、ちょっとうれしかったです。え、体調ですか？少しオーバーウェイトぎみなので、逆にちょうどよかった感じかもしれません。講習あけにみなさんにお目にかかったり、E-Lectureの9月以降の「東大スパルタン」や「京大スパルタン」で画面上でお目にかかるときには、スリムな私になっているはずですから…

同じようなことを昨年も言った気がします…でも小さいことは気にしない。さあ、はりきって今回も論述問題にとりくんでもらいましょう。

今回はイスラームです。実は夏期教室授業、そして京大スパルタンでもこの問題をあつかっています。ここでのエッセンスはいたるところで現れてきますので、ぜひとりくんでいただきたいと思って出題しました。イスラーム世界の転換期となった、10～11世紀です。問題だけを見るとなんだか漠然としていますね。でも一つ重要なヒントをあげておきます。カリフがどうなったか、これがいくつかあるポイントの一つです。それではおよそ30分でチャレンジ！

## 問題

10～11世紀は、西アジアにおけるイスラーム世界の歴史の展開の中で、1つの大きな転換期であったと考えられる。このように考えられる理由を、政治・社会・宗教の3つの側面から、300字以内で具体的に説明せよ。

(1993 京都大学)